

第4回研究全体会

ワークショップ・セミナー 「自律した学習者を育てるために、私たちのできること」

講師 私立横浜創英中学・高等学校校長補佐 山本崇雄先生

1 Icebreak 自己紹介を兼ねて

「フォーラム（討論会）」の8つの約束（対話を安心して行うためのルール）の確認。

山本先生の好きなものを並べた写真を見て、興味のあることについてグループごとに話し合う。

○3. 11で被災した校舎→「教えない授業」のきっかけになった。

○ケンブリッジ大学→同年（2011）ケンブリッジ大学で「教えすぎ」と指摘された。

○初めの区立中では「わかりやすい授業」、予備校や塾のような授業をやっていた。例えば、"Repeat after me." は、「私の言っている通りにしなさい」ということ。

○Game of Throne 解放された奴隷が、「もう一度奴隷に戻してほしい」と言ったセリフに刺激された。



→ 好きなものがたくさんあると、対話ができる。仲間ができる

→ 仕事が増える。世界が広がっていく。だから、選択肢を増やしてあげることが大事

例)「医者になりたい」→なぜ? → 病気の子供を救いたい → 医者以外の選択肢もある。

昔は、「歌手になりたい」は難しかったが、今は Youtuber も含め誰でも「歌手」になることができる時代。

2 子どもたちの学びはどこへ向かうべきか？

○もはや AI が芸術作品も作り出してしまいう時代。（生成 AI が作り出した画像が、権威ある写真コンテストで最優秀賞を受賞してしまった事件を見て考える。）

○空に向かってのびのびと枝葉を広げる大樹を見て

子供たちの学びは 「オーガニックな学び」 「メカニカルな学び」 どちらに向かう？

○ワークショップ「オーガニックな学び」「メカニカルな学び」とはどんなものか具体的に考える





【グループA】メカニカル「ドリル、漢字など反復して行うもの」「つくるものが決まっていると自由に発展できないもの」オーガニック「トッピング、学活、委員会、クラブ活動、図工、音楽、体育」

【グループB】「漢字学習を一斉に教えるならメカニカル、子どもたちが自分で調べて学習するならオーガニック。計算の手順を教員が説明はメカニカル」「手本、見本、こうやりましたよ」という、習字とか型ができてい

るものをめざすとメカニカル？ オーガニックにするためには参考に、これを生かして、など子どもたちが調べながらやっていくもの。」

【グループC】メカニカル「計算、漢字、ノートの書き初め、水泳、鉄棒など技を習得するもの、給食当番・掃除など遣ることが決まっているもの、音楽で楽譜通りに演奏する」オーガニック「休み時間、体育のゲームのルールを自分たちで考えるもの、クラブ、学級会、1年生がやっていた砂遊び」

書き方、書き順通りに書きましょう、習字・



【グループD】メカニカル「学級会、学習のルール、基礎的な技術の習得、安全指導など」オーガニック「その基礎の上に、創作活動、基礎の上に広げていけるもの、トッピング、総合的な学習など、係活動など人に役立つ活動など」

【グループE】「機械的にやっていくもの、同じ植物を育てるのはメ、自分の好きなものを育てるのはオーガニック。教室で動画を見るはメカニカル、実際に体験するのがオーガニック。タブレットで機械を使って調べるのがメカニカル、本とか辞書で調べるのがオーガニック？ 知識・技能的なものはメカニカル、思考・判断・表現がオーガニック。」



○私は「教えない授業」を提唱するけれど、目的のためにあえて「教える」を選択することもある。

○どちらも大事で、区別する必要もないかと思っている。

○紙の辞書は「道草」する良さがある。紙か電子かは学び方次第？

例えば、ノートの取り方一つにしてもディスレクシアの子だと、ノートには書けないが、ICTを使うとこんなに上手にまとめられる子

もいる。書けと言えは言うほど苦しむ。教師の側で勉強の仕方を整えるのは、(教師には) やりやすいが、一人でもそれができないのなら、やり方を(子どもに) 選択させればよい。

○自分が選択しなければならぬ、ということをつからせたい

3 学び方が大事 自律的、主体的な学びを最上位目標にするとしたら、その手段は？

○ワークショップ「自律」「主体的」を最上位目標として、それぞれの場面でどんな声かけをするか考える。カードに書かれた様々なケースを見て、どのような声かけをすると最上位目標が達成できるかを考える。



【グループF】「文化祭の出し物について意見が7対3に割れたケース。まず、理由を聞く。「遣ってみれば」と言う。二つを合わせてみたら、とアドバイス。同僚の悪口をきいた時のケース。同調する。なんでそう思ったんですか、と聞く。どちらにもいえることとしては、あまり自分の考えを挟まずに受け止める。どうしてそう思うの？と相手に返す。」

【グループG】「いつも遅刻する生徒にどんな声かけをするか。どうした？ おはよう。遅刻だね。今日も来られたね。もう少し早く起きられるとイイネ。眠かったよね。共感する感じで。ちょっかいは出しているうちに本気のけんかになったケース。どっちもどっち。こういうときはどうするんだったっけ？と確認する。相手の表情を見て、本気で嫌がっていたらやめようね。まず共感する。自分の気持ちに気付く。」

【グループH】「共感をして受け止め、相手に寄り添うような態度で、自分で考えて自分で決めさせる。その結果は自分で受け止めるようにさせる。」

【グループI】「進路のケース。自分で決めたことを大切にさせる。部活で基礎練をやらない ケース。人に迷惑をかけているかどうか、それが何に役立つかを話す。コミュニケーションに参加できない子のケース。やっている子を観察させる。周囲の子が助けてくれるような声かけをする。社会に出てから自分が困るので、最終的には自分のためになると気付かせる。」

【グループJ】「最終的には、子どもの意思を大事にしたいので、まず理由を問う。どうして？その後、活動の良さを伝える。最終的には、子どもに選択させる。」



4 まとめ

○自由な学びをすると必ずトラブルが起きる → 上記のグループワークでは、それぞれの先生の対応がバラバラであった。トラブルを解決する「スキル」を共通してもつことが必要。このスキルをうまく使うと、トラブルがチャンスに変わる。どの先生も同じように対応ができるようにならなければならない。

○パブリック・リレーションズ (PR) 関係性をつくるために必要な要素

- ・「みんながハッピーであること」(倫理観) 誰も取り残さない。マイノリティを切り捨てない。
- ・「対等に対話をする事」一方的に押し付けない
- ・「試行錯誤しながらより良い方向に進むこと」信念を曲げてもより良い方向へ進む覚悟が必要



○子どもを主体的にする「スキル」
= 3つの言葉がけ

- ・「どうしたの?」「どんな気持ち?」 …メタ認知
- ・「どうしたい?」「どうなりたい?」 …目標設定
- ・「私にできることはある?」「先生にできることはある?」
チーム医療的アプローチが重要

○タイムマシンメソッド (声かけのスキル)

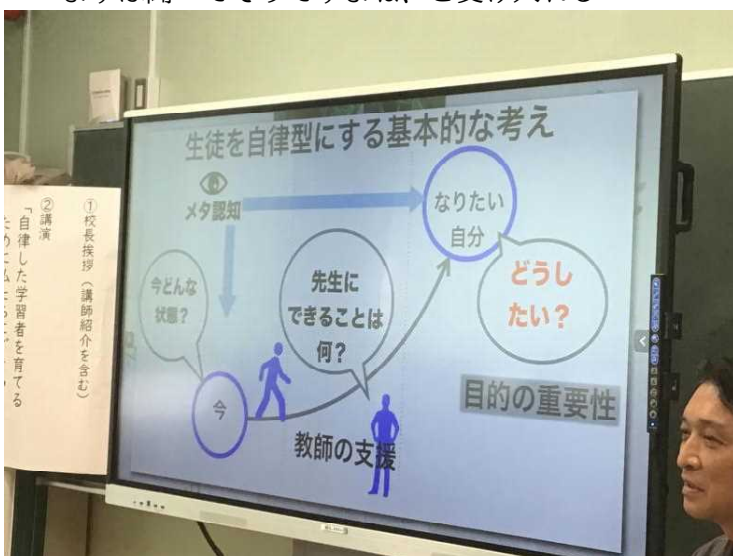
- ・「その選択で、どんな未来になる?」「どんな成長する?」
- ・「その成長でいいの?」
- ・「先生には決められないな。自分で決めてね。」

○社会生活に必要なのは「仲良しにならなくてもいいが、共通の目標を達成することが大事」

- ・嫌いな人でも、協力して質の高い成果をあげる知性を身につけることが大事

○「どうしたい?」がとても大切 子どもたちは、ほとんど聞かれていない。聞いてあげることが大事

○アサーション ドラえもんキャラクターは心理学的に分類されているが、しずかちゃんの対応が大事 最初「わー、素敵!」と言う(受け入れる)それから「でも習い事がある。また誘って」まずは聞いてそうですね、と受け入れる



○多数決をしてはいけない。文化祭の出し物の話し合いで、7割が屋台、3割がミュージカルだった時、話し合いを続けて、子どもたちは屋台の前でミュージカルをやった。(両国高校の例)

○選択権は学習者にある

一人で作る、グループ、みんなで? どうしたいですか?

○いろんな手段があっいい。そのためには、「目的」の合意形成しなければならない。

○自分の指示に従わない時どうするか。

→まず、練習の意義を説明する。そして、「これから 100 個漢字を書くよ」と言った時、「どうしてですか?」と言える子を育てたい

○ファクトチェックが非常に重要「それ、見たの?」本当かどうか分からないね、ということを確認させる。

→思い込みや個人の意見は、徹底的に整理していかないといけない。

○子どものけんかは初期対応が大事。聞き取りの順番が大事。まず被害者から徹底的に聞き取ってから、被害者が認める（「誰に聞いたらわかる?」）周りにいた子に聞いて、最後に加害者に。なぜなら、「一回ついた嘘は二度と元に戻らない」から。

○ダメな時は「それは社会では許されないよ」と教える。

○先生が「やってあげて」いると、依存型の子どもになり、常に「サービス」を求めるだけになる。

○先生がスキルを使うと トラブルごとに生徒に感謝されるようになる。

5 質問、その他

S先生 やりたくない、という子に、どうしたら、うまくやらせられるか? 「寝たい」と言われた時どう切り返すのか?

○できない → できる に変えるスキルが必要。

○何のために学習するのかを一緒に考えるといい。こんなことができるようになったら素敵だけど、そのために地味な一歩が大事だよ、と気付かせる。

○基本的には、「誰かの学びを邪魔した時だけ注意する」 参加しない子には「どうした?」と言う声かけをする。

この他、横浜創英で行っている改革の概要と、トラブルの際の対処法を具体的にお話しいただきました。

○トラブルを自律に変える

○本人と先生の間を良くする

○聞き取りしている時に指導は絶対にしない。淡々と聞く。自分でどう解決したいかも選択させることが大事。

○心配な子への対応について。

○子供は自分はダメだと思っている。褒めれば自己肯定感が上がるのではない。大人が適切にフィードバックしてあげることが大切。

